

1-18. クリーン飼育室オートクレーブ使用手順

改正 平成 21 (2009) 3 月

* オートクレーブの使用は、講習を受けた教職員が行ってください。

<準備>

1. クリーン側の操作 (1) 扉の前の札が「搬出済み」であることを確認する。(2) 扉が、閉まっていることを確認する。(3) 扉の前の札を「作業中」に換える。
2. オートクレーブの洗浄室側扉奥にある元電源(200 V)開閉器の電源を ON にする。
3. オートクレーブ用台車を洗浄室側に出す(缶体が陰圧になり扉が開かない場合は、行程 6 および 7 を先に行い、缶体が温まるまで少し待つと扉が開く)。
4. 滅菌する飼育機材等を搬入する前に、床敷が落ちていたときは、掃除機でオートクレーブ缶体内及びストレーナー(排蒸気排水の穴、両ドアの前の辺りに 2 箇所ある)を清掃する。
5. 清掃後、洗浄室側扉のパッキン(扉のシリコン部分)とフランジ(缶体側のパッキン当たり面)を除菌ワイパーを用いて清拭する。
6. 元蒸気用コックを開き、そのコックの右側にあるメーターの元蒸気圧力が 0.15-0.25 MPa の範囲内にあることを確認する。
7. オートクレーブの洗浄室側操作パネルの電源を ON にする。
8. パネルの行程選択スイッチを 3 もしくは 4 に合わせ、選択した行程表示ランプが点灯するのを確認する。

行程 3 (対象:飼育器材等) 滅菌:110℃ 30 分 乾燥:80-90℃ 60 分

行程 4 (対象:床敷) 滅菌:121℃ 90 分 乾燥:80-90℃ 60 分

<搬入>

9. 年月日記入済みの滅菌テープを貼った被滅菌物をオートクレーブ用台車に乗せ、台車をオートクレーブ缶体内に入れ扉を閉める。扉は始動スイッチ用ランプが点灯して(「カチッ」という音がして)から、さらに 3-4 回転ほど余分に閉める。

<滅菌>

10. パネルの外筒圧力計が、0.6 kg/cm²(行程 3)、もしくは 1.2 kg/cm²(行程 4)以上になっていることを確認する。
11. 始動スイッチ(START と書いてある赤い部分)を、行程表示ランプの「準備」が消えるまで(約 5 秒間)押す。行程表示ランプが「真空」に変わり運転が開始する。
12. 蒸気オートクレーブ使用簿に月日、講座名、氏名、運転開始時刻、行程番号を記入する。
13. 全行程終了後(ブザーが鳴り、行程表示ランプが「完了」になっている)、洗浄室側扉奥にある元蒸気用コックを閉じ、元電源(200 V)開閉器の電源を OFF にし、洗浄室側操作パネルの電源を OFF にする。

<搬出>

14. 洗浄室側操作パネルの電源を ON にする。
15. オートクレーブの滅菌圧力計が 0 kg/cm²を示していることを確認してからクリーンエリア側(反操作側)の扉を開き、オートクレーブ用台車を出す。
16. 滅菌物を各々所定の場所に保管する。その際、滅菌物が熱い場合は、清潔で厚手の軍手等を使用する。また、台車を使用する場合は台車にアルコールを噴霧する。

17. 搬出後、床敷が落ちている場合は除菌ワイパーを用いてオートクレーブ缶体内を清掃する。
18. オートクレーブ用台車をオートクレーブ缶体内に戻す。クリーン側扉の前の札を「搬出済み」にする。
19. クリーン側扉のパッキン(扉のシリコン部分)とフランジ(缶体側のパッキン当たり面)を除菌ワイパーを用いて清掃してから扉を閉める。その際、「カチッ」という音がしてからさらに3-4回転ほど余分に閉める。

<終了>

20. 洗浄室側操作パネルの電源を OFF にする。蒸気オートクレーブ使用簿に終了時刻、異常の有無を記入する。
また、蒸気オートクレーブ滅菌行程記録紙(洗浄室側操作パネル内にある記録紙)に日時を記入する。異常があった場合は、必ずセンター教職員にご連絡ください。

- ◎ オートクレーブの両扉は確実に閉めて下さい。閉め方が不十分ですと蒸気が漏れ、火災警報器が鳴ることがあります。火災報知器が鳴ると、消防署への届出が必要となります。ご注意ください。
- ◎ オートクレーブ缶体内は適切に清掃を行い、缶体内に床敷を残さないでください。
 - * 床敷が缶体底部にあるストレーナーに侵入すると故障の原因になります。
 - * 床敷がシリコンパッキンに付着すると、蒸気漏れの原因となります。
 - * 使用状況やトラブル発生状況によってはやむを得ず、行程 4(対象:床敷)を中止せざるを得ないことがあります。